

令和4年度町政懇談会記録

- 1 会議の名称 令和4年度町政懇談会（下長尾地区）
- 2 会議日時 令和5年1月31日（火）午後7時から午後8時20分まで
- 3 開催場所 下長尾地域振興センター
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 下長尾地区 参加住民 17名
 - (2) 執行機関 町長 藪田靖邦、副町長 秋元伸哉、教育長 山下 斉
(出席課長) 企画課長 大村、建設課長 風間、高齢者福祉課長 海老名
(書記・庶務) 教育総務課長補佐 松本、支所管理局室長 池本
社会教育課主幹 小長谷、情報政策課主幹 横畑
- 5 内容
 - (1) 行政からの報告（町長・副町長・教育長）
 - ・これからの取組と今後のまちづくりの方針
 - ・デジタル技術を活用した情報サービスの向上
 - ・町の教育方針について
 - (2) 町民の皆さんとの意見交換
- 6 発言の内容
 - (1) 事前の質問に対する回答等
 - (問) 廃校となる校舎の使われ方は？すでに利活用の方法が決まっているのか？どういう用途で使用するのか？グラウンドは使えるのか？教員住宅はどうなるか？草取りなどはやってくれるのか？
 - (答) 今後の学校再編による廃校舎の利活用を検討する委員会の設置準備を現在進めており、現時点では目的を限定せずに幅広く利活用方法を検討していきます。なお、引き続き町有施設なので、これまで通り草取りなどの管理は町が実施していきます。
 - (問) 人口減少により産業の衰退など様々な問題が起こっているが、このような状況においての町の考えは？人口をこれ以上減らさないためには？区

割りの見直しはしないのか？高齢化により自治会活動の出役が大変になっている。高齢者が増えているため、災害時の対応が難しい。

(答) 何も手を打たなければ、減少の一途をたどってしまいます。公約に掲げていますが、移住定住に力を入れていきます。区の再編については、区の指導で進めていただき、行政は相談を受ける形で対応していきます。また、自治体活動については、それぞれの区の実情にあった活動を計画してください。災害時の対応については、まずはご自身の安全を確保していただくことが大事です。次に隣近所の方や自主防災会で協力するなど、できる範囲で対応してほしいと思います。広域に災害が発生した場合には、町の対応が遅れてしまうことは、どうかご理解ください。

(2) 意見交換

(住民) なぜ町の合併で(町が)1つになったのに、(学校が)2つになるのか経緯を説明してほしい。

(町長) 学校設置適正化及び教育のあり方協議会の答申がもとにあり、それを踏まえ2校という考えで進めてきました。小さな町だからこそできること、北部と南部でまだできることがあると考えています。前町長からも引きついでいますが、これは町づくりとセットだと考えています。今後も、思いをもって進めていきます。

(教育長) これまでの学校再編の協議の流れについて少し触れると、平成30年5月に学校設置適正化及び教育のあり方協議会を立ち上げました。その前は、教育委員会としては小規模校のよさを生かし、再編はしないでいきたいという思いでありました。南部小に自分が勤めたときも、運動会に地域の方が100人以上応援にきていただいたことなど目の当たりにし、少人数のよさを生かした教育がとてもよいと思っていました。一方で、学校があまりにも小規模化する、女子が1名という学年も出てきました。今後やっていけるかという保護者の心配する声が出て、協議会が立ち上がった経緯があります。協議会では、川根本町のよさは少人数で手厚く一人一人を大切に作る教育であり、できるだけ学校を1つにまとめるのではなく、それぞれのよさを進めていきたいという意見が出ています。仮に1校とした場合には、通学のために7時前に家を出る子が出てしまい、現実的に子供の負担を考えるとどうなのか。できるだけ通学距離が遠距離になることへの負担をおさえたいという意見、

また、できるだけ既存の校舎を利活用していきたいという意見もありました。これからも、目の前にいる子供たちのことを考えて小規模校のメリットを生かしながら、スピード感をもって学校再編をしていきたいと思います。義務教育学校が全国的にだんだん増え、土肥小中学校が静岡県に1校目の義務教育学校で、本町は2校目となります。同じような課題を抱えている地域は多く、単独ではなく、小中が一緒になった義務教育学校にして、たくさんの子供同士が関われるように、義務教育学校のメリットが生かしていけるようにと考えています。町に移住してきた家庭も複数います。ぜひここで教育を受けさせたいと、興味をもっての方が増えており、今後も親山里山留学の取組も進めていきます。義務教育学校2校で、それぞれのよさを生かしながら人口を増やして、よい教育をし、発信していきたいと思っています。

(住民) 駐在所、農協などがなくなってさびしい。南部小が定住の核になるように、受け入れ態勢等、地域の起爆剤として希望をもっているのので、跡地の利用を検討していただきたい。

(町長) 小学校に対する思い入れはいっぱいあると思います。学校施設利活用委員会を設け跡地利用の検討を進めていく中で、みなさんと話し合いながら進めていきたいと思っています。

(住民) 健康に関する質問だが、どんどん過疎化になる一方で、緊急医療が心配である。JAが徳山に統合された。当初、統合施設の建設予定地であった旧長尾川製材所跡地にドラッグストアがほしい。駐在のかわりに、地域住民が青パトで巡回するなど、定住移住を踏まえた防犯についても力をいれないといけないと思う。

(町長) JA跡地については、様々な機関へ相談し、県内のドラッグストアにも声をかけたが、なかなか来てくれません。資材の高騰もあり事業として手をつけられないと思うが、跡地については今後も検討し進めていきます。防犯対策については、デジタル技術を活用して役場に知らせるシステムを作るなど、いろいろなことができると思うので、今後検討していきたいと考えています。

以上